

第1回 安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョン策定委員会 議事要旨

日 時	令和4年11月21日（月）15時～16時45分	
場 所	安来市役所安来庁舎 201 会議室	
議事骨子	1. 自己紹介 2. 委員長・副委員長の選出 3. 再エネ地産地消ビジョンの位置づけ【資料1】 4. これまでの動き【資料2】【資料3】【資料4】 5. ビジョンの作り方の意思統一 6. 次回開催までのアクション決定 7. 意見交換	
配付資料	・次第 ・資料1 再エネ地産地消ビジョンの位置付け ・資料2 市職員 WS 報告書 ・資料3 安高 WS 報告書 ・資料4 これまでのヒアリング結果概要	
委 員	19名中16名出席	
	所 属	氏 名
<input type="checkbox"/> 出席	<input type="checkbox"/> 島根県立大学地域政策学部 准教授	伊藤 豊
<input checked="" type="checkbox"/> 欠席	<input type="checkbox"/> 安来市地球温暖化対策地域協議会副会長	大谷 俊行
	<input type="checkbox"/> 安来市地球温暖化対策地域協議会副会長	富田 守
	<input type="checkbox"/> 安来市地球温暖化対策地域協議会委員	松島 信彦
	<input checked="" type="checkbox"/> 株式会社キグチテクニクス 代表取締役社長	木口 貴弘
	<input type="checkbox"/> 株式会社ひろせプロダクト 代表取締役社長	鉄本 学
	<input type="checkbox"/> 産業サポートネットやすぎ 所長	吉村 武志
	<input type="checkbox"/> 一般社団法人安来青年会議所 副理事長	秦 靖英
	<input type="checkbox"/> 株式会社日本政策金融公庫 松江支店 支店長	葛城 宏
	<input checked="" type="checkbox"/> 安来金融会	中村 章美
	<input type="checkbox"/> 安来市 副市長	伊藤 徹
	<input type="checkbox"/> 安来市 政策推進部 部長	宇山 富之
	<input type="checkbox"/> 安来市 総務部 部長	大久佐 明夫
	<input type="checkbox"/> 安来市 市民生活部 部長	遠藤 浩人
	<input type="checkbox"/> 安来市 農林水産部 部長	細田 孝吉
	代理出席：農林振興課 課長	伊藤 豪一
	<input type="checkbox"/> 安来市 上下水道部 部長	黒田 耕
	代理出席：水道工務課 課長	加藤 健一
	<input type="checkbox"/> 公募	野々村 千映子
	<input checked="" type="checkbox"/> 公募	福田 紘子
	<input type="checkbox"/> 公募	石田 優美

オブザーバー	所 属	職 名	氏 名
	経済産業省 中国経済産業局		
	資源エネルギー環境部 電力・ガス事業課	課長補佐	柿本 剛 (WEB)
	資源エネルギー環境部 電力・ガス事業課	総括係長	安藤 武志 (WEB)
	エネ高 地域づくりサポート事務局	推進員	佐々木 健 (WEB)
事務局	部 署	職 名	氏 名
	市民生活部 環境政策課	課長	佐伯 章
	市民生活部 環境政策課 環境対策係	係長	永島 美奈子
	市民生活部 環境政策課 環境対策係	主任	太田 敬二
	市民生活部 環境政策課 環境対策係	主任	景山 達志
	市民生活部 環境政策課 廃棄物対策係	主事	中村 翔
業務委託先	所 属	職 名	氏 名
	株式会社エブリプラン	専務取締役	勝部 祐治 (WEB)
	株式会社エブリプラン 地域政策部	取締役 部長	山田 将巳
	株式会社エブリプラン 地域政策部	研究員	門野 淳記 (欠席)
	株式会社エブリプラン 地域政策部	研究員	福井 香衣

#### 1. 自己紹介

#### 2. 委員長、副委員長の選出

委員からの拍手により以下の通り選出。

委員長 伊藤 豊 氏

副委員長 伊藤 徹 氏

#### 3. 再エネ地産地消ビジョンの位置づけ【資料1】

事務局より資料説明。

委員による意見は特になし。

#### 4. これまでの動き【資料2】【資料3】【資料4】

事務局より資料説明。

#### ○質疑応答

委員：資料に再エネは自家消費がベターとあるが、弊社は、非常用はあるものの常時の自家発電ができていない。工場では鉄を溶かす工程があり、この余熱を利用できると良いが、常に熱が出ているわけではなく活用が難しい。場内に発電設備を置くスペースもなく、検討が進んでいない。

- 委員長：COP27でも、これまでのESG投資やグリーンファイナンスといった効果的に温室効果ガスを削減できるところに投資する動きからトランジション・ファイナンスという移行のための投資の仕組みが話題に上がっている。この枠組みを日本でも作っていかうという動きが始まりつつある。
- 副委員長：ヒアリング結果より、新電力から買っている事業者がある中で、新電力は最近経営が厳しいと言われているかどんな印象だったか。
- 事務局：ヒアリング当事者の委員よりご意見賜りたい。
- 委員：3年前に、中国電力から新電力に切り換えた。コスト圧縮を目的としていたが、今年から電力料金が高騰している。中電に戻そうと相談したが、新規の契約は受け付けていない、見積もりも出せないと言われた。今思えば中電と契約し続けておけばよかったと思う。今年の電力料金は去年の倍になった。
- 副委員長：ヒアリング結果で言われた、太陽光発電事業者の「今は自家消費がベター」とはどういう意味か。
- 事務局：売電価格が安いので、自家消費するほうが良いということ。
- 副委員長：バイオ炭について、中国地方随一というのが興味深い。
- 事務局：製炭炉が大きく、炉および作り方で特許を持っておられる。
- 委員：バイオマス発電に関して、木は成長過程でCO<sub>2</sub>を吸収しているため排出量を削減する考え方は理解できるが、竹は成長過程でCO<sub>2</sub>を吸収しないのではないのかと思うが、排出量ゼロと考えてよいのか。
- 委員長：竹はシリカが多く、発電設備を長期的に使う場合に木質に比べると設備が壊れやすいデメリットはあるが、CO<sub>2</sub>削減に貢献していると言えると思う。ちなみに竹の炭素の含有量4～5割、木材は7～8割。
- 委員：素朴な疑問だが、太陽光発電はパネルの寿命が短く、産業廃棄物になるという印象があるが、相変わらず再生可能エネルギーとして推進されているということは、太陽光発電に代わる再生可能エネルギーはないということか。
- 委員長：おそらくそのように思っていて差し支えない。設置に伴って、景観を損ねるなど地域住民とのトラブルが取り上げられることも多く、悪い印象を抱く人も多いが、設置事業者がいかに地域に入っていくかが大事。そういうことに努力されている事業者もある。
- 事務局：最近では交流センターの街路灯にも付けられるような小型の風力もある。市の公共施設に設置できないか検討している。
- 副委員長：何にしてもメリット・デメリットがあり、安来市にあったものを検討していく必要がある。地産地消の観点を取り入れながら検討できればと思う。
- 委員長：江津市では住民が投資して風力発電を設置し、売電収益の一部を住民に還元している例もある。

## 5. ビジョンの作り方の意思統一

事務局および業務委託先より説明。

○質疑応答

- 委員：2050年には発電量を市内で自給しようとしているという理解でよいか。
- 事務局：検証は必要だが、不可能ではないと思っている。
- 委員：自給しようとしているのは電気だけか。
- 事務局：熱もある。分かりやすい例として薪ストーブが挙げられる。
- 委員：ちなみに2030年の目標はあるか。
- 事務局：CO2の削減量では、既に策定している温暖化対策実行計画では13%としている。
- 委員：本ビジョンはカーボンニュートラル、二酸化炭素の排出量を実質ゼロにするためのものであり、再エネだけの計画ではないと思っている。
- 副委員長：市外へのエネルギー代金流出額170億円を、10年では難しいと思うが、いろいろな切り口から地産地消に取り組んでいき、取り戻していく。
- 委員：ビジョンを視覚的に見せるのは良いと思うが、安来市が具体的にどうしたいかが分かりづらい。例えば2030年にバイオマス発電施設をつくる、といった目標があれば教えてほしい。
- 事務局：総合計画に掲げている公共施設への再エネ導入は最低限進めていく。本ビジョンでは市民とどういうことを進めていきたいかを示せると良い。
- 副委員長：「何をどうしましょう」というところまではまだ決めていない。これを決めてもらうのがこの委員会だと思っている。何を盛り込んでいくか、どんどん意見を言ってほしい。
- 委員：あまりにも総花的。もう少しまとめたものを提示してほしい。実現可能性を示してもらえないとビジョンとして発表できないではないか。具体化された施策を示してほしい。
- 委員：バイオ炭について、バイオマス発電から出る炭は活用できないか。
- 委託事業者：それも活用可能。
- 委員：再エネだけでなく、カーボンニュートラルを考える上で、CO2を固定する意味でバイオ炭を取り上げている。発電を入れることが必須ではないと考える。
- 委員：バイオマス発電をする場合、新たに会社をつくるのか、よそから呼んでくるのか。
- 委員：安来市単独、周辺地域との連携など、複数の選択肢が考えられる。可能性を検証した上で、にはなるが、米子、境港、雲南等と連携するのも一つの手と思われる。
- 委員：土壌改良剤とは何をするものか。
- 委員長：農地の水はけを促進したり、竹の炭であれば繊維の隙間で土壌菌の繁殖につながったりする。バイオ炭は炭素貯留の考え方だが、大阪には製炭時の発電に取り組んでいる会社もある。
- 委員：バイオマス発電の燃え殻が産業廃棄物として社会問題になっており、出口をきちんと決めておかないといけない。活用法がないらしく、処分場に溢れかえっていると聞く。
- 委員：本日の山陰中央新報の一面に「自治体の脱炭素化ピンチをチャンスへ」という

記事が掲載されている。この会議は様々な事例を検討して議論するのか、それとも事務局が提示するたたき台をベースに議論するのか？私は前者のイメージをしている。

事務局：会議は3回だが、適宜メール等でやりとりしたい。

副委員長：次回はある程度のたたき台を示すと思うが、そのたたき台に入れてほしいものがあればメール等で情報提供してほしい。

事務局：専門知識をお持ちの委員の皆様からご意見をいただいて、次回の会で語りたい。

委員：資料は事前に送付いただきたい。

事務局：承知した。

#### 6. 次回開催までのアクション決定

事務局より以下のアクション（今後の予定）を紹介。

- ・策定委員会の議事録を市ホームページで公開
- ・プレスリリース等メディアの活用
- ・若者ワークショップ
- ・バイオ炭体験会

#### 7. 意見交換（市役所より情報提供）

- ・約100灯ある街路灯をすべてLED化する。
- ・市内で風力発電を検討している民間事業者（JRE）の「計画段階環境配慮書」の縦覧が始まる。
- ・木質バイオマス発電事業について民間事業者から相談があった。山林を切り開いて4,000平米の敷地を予定している。燃料は、できるだけ地元の間伐材を使用することを検討されている。すぐにチップ化する体制はとれないため、当面はチップ事業者から仕入れる予定。

以上